

令和6年度 施政方針



市制施行当時の府中駅

令和6年2月
広島県府中市

令和6年度市政運営の基本方針及び施策の概要

市制70年～しあわせが実感できる^{みらい}100年に向かって～

1. はじめに

コロナ禍からの景気回復によるダイヤモンドプル型インフレは、原油をはじめとする国際商品市況上昇と円安による資材価格等の高騰、また賃金上昇によるコストプッシュ型に移りつつあります。

企業活動においては、円安傾向また少子高齢化によって外国人を含めた雇用の確保が困難となる場面も生じ、そのために一部ではコロナ禍明けの景気回復の波に乗れない状況も生じています。

地域コミュニティにおいては、長引いたコロナ禍における交流制限が大きな影響を与え、これまで当然であった地域活動や人間関係を毀損し、従前の共助関係を復活させることはもとより、新たな関係性の構築が困難となる場面も見られます。

社会は、コロナ禍が明けて単にコロナ禍前に戻ったわけではなく、今後は新しい社会構造への変化に対応する必要性が生じてくるものと考えます。

したがって、あらゆる分野でここ数年行ってきた施策展開についてアップデートと見直しの必要性が生じています。

これは、今後府中市が「新たな社会構造」の中で生き抜いていくために必要な「更新」であり、時代の潮流に遅れることがないように、勇気をもってスクラップを行い、新たな社会に適応する事業をビルドアップしていきます。

府中市は令和6年3月31日で市制施行70年を迎えます。市制70周年にあたり、昨年度から「しあわせが実感できる100年（みらい）に向かって」というキーワードを掲げています。

総合計画に掲げた「しあわせ実感」のためには、ウェルビーイング（幸福感・自己肯定感）の浸透によって市民生活の質を上げることが重要です。

市民の所得増を含めた住民満足度の向上により、結果的に定住意欲とともに社会参加意欲を促進させることで持続可能な地域コミュニティ・自治体の実現が可能になると考えています。

そのため、「人口減対策」「賑わい創出」「産業の活性化」を三本柱として、総合計画に掲げる6つの基本目標に掲げる取組を着実に進めていきます。

2. 総合計画に掲げる6つの基本目標にかかる取組

【基本目標1】力強い産業が発展するまち

市内の産業が活性化することは府中市の活力において重要です。

府中市の活力をけん引してきたものづくり産業、中小企業に対する販路拡大や人材確保に向けた支援を継続し、重層的な産業構造の構築に向けて、あらゆる産業（農業・林業、製造業、サービス業など）における付加価値向上につなげます。

そのため、DX導入による効率化や生産性向上・自動化の促進など、製造品出荷額の増加に向けて企業と協働して取り組んでいます。

また、企業立地促進制度を改正し、企業誘致等による新たな産業と雇用の創出を図ります。令和6年度はロジスティクス（物流）関係を対象業種に加えることとし、今後も社会情勢によるニーズの変化に応じて、新たなビジネスの創出（起業・多角化・サービス業を含む企業誘致）によって多様な産業と多様な人材の集積によるまちの活力創出を図ります。

農業においては、継続して担い手確保に向けて取り組むとともに、農業経営基盤の整備や地域資源循環型農業を推進し、土づくりにこだわった「府中市ブランド」の推進と「食」を支えるコンテンツとして持続可能な産業となるよう育成していきます。

●令和6年度重点事業

- ・ 力強い産業の実現
- ・ 農業振興ビジョンの実現に向けて

【基本目標2】人・つながりが育つまち

先日発表された、「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）によれば、2050年には府中市の人口が44.8%減少（2020年度比）すると推計されています。

人口減、縮小社会への流れを止めることは困難ですが、その流れを緩やかにするため、生まれる子供の数を増やす「自然増」に向けた取組と、市民の満足度を高めることで市外への流出を防ぐ（転出抑制）とともに府中市に人を呼び込む（転入促進）という「社会増」を実現させる必要があります。

自然増については、妊娠・出産から子育てをトータルで力強く支援していくこ

とで、出生数の増加・合計特殊出生率の改善に努めていきます。

強力な支援によって市民の満足度と信頼度が上昇し、出生数の改善につながることができれば、「子育てにやさしいまち府中」へ転入しようという若年層の増加につながり、ひいては地域の活性化につながるものと考えています。

令和5年度にはこども医療費助成の抜本的な見直しを行い、所得要件の撤廃とともに18歳到達年度末（一般的に高校卒業）までとする対象年齢の拡大を行いました。

令和6年度は0歳児からの保育料無償化を実施します。0歳児からの保育料無償化については、第2子から・第3子から、という市町が多い中、第1子からを対象としているケースは少なく、「子育てにやさしいまち府中」というブランドの浸透にも寄与するものと考えています。所得要件を設けないことで全ての世帯（家庭）が対象となり、地元で働き、府中市で子育てをしようと考えていただく人々を増加させることは、人口面では社会増、市内産業にとっては働き手確保にもつながるものです。

「保育料無償化」に加え、住所地ではなく勤務地の近くで子どもを預けられる「保育所広域入所」などの子育て機能強化といった「子育て支援パッケージ」の推進により、出生数増（自然増）と子育て世代の増加（転入促進・転出抑制・子どもの人口増）につなげます。

また、子育てがしやすい環境とは、子ども自身が心身ともに健やかに育つことができる環境です。子どもの育ちにつながるリスクを早期に把握し、福祉や教育の関係機関で情報共有して予防的支援を行う「子どもの予防的見守り支援システム」に加えて、児童福祉法改正による児童虐待とネウボラ機能を統括的に実施する「府中市こども家庭センター」の設置により、未然に防止する体制を一層強化していきます。

教育においては、子供たちの資質・能力育成を目指すとともに、居心地や安心感に寄り添いつつ、「もっと挑戦してみたい」というチャレンジを後押しする教育活動を展開します。

また、本年9月には、小中一貫教育全国サミットが本市で開催されることが決定しました。全国の教育関係者が一堂に会す大会として、まちを挙げて取り組みたいと考えています。

●令和6年度重点事業

- ・ 保育料無償化（子育てパッケージ）
- ・ 「未来を拓く！」府中市学力向上事業
- ・ 府中市子供の学び応援基金
- ・ 市民協働のまちづくり事業

【基本目標3】 活気・賑わいを生むまち

「社会増」については、市民満足度を上げる取り組みのほか、「人が人を呼ぶ」「賑わいが更なる賑わいを呼ぶ」ための魅力的なコンテンツが不可欠です。

駅南エリアの賑わい空間創出については、令和6年7月に第2期オープンする「i-coreFUCHU」に地元出身プレイヤーが運営されるカフェをはじめとした大人が集える空間を整備します。

令和7年7月に開業予定の市民プールには、単なる「プール」だけではない、スポーツ振興や健康増進施設としての賑わい創出、さらにはスポーツを軸とした地域活性化を期待しています。

プールに隣接するエリアについては、イベントによる賑わい創出にとどまらず、「出店など自分のやりたいことにトライしてみる」「他者と集う」「他者とのネットワークを構築する」効果による地元プレイヤーの育成を図りつつ、周辺施設の屋外利用によるエリア全体の賑わいにつながる広場とするため、各エリアの相乗効果を念頭に検討を重ねています。

具体的には、i-coreFUCHU、道の駅びんご府中、PicLike Park（仮称）、ジーベックホール等関係施設が連携して駅南エリアにおける賑わい創出を確実に実現していくよう、外部専門家の意見や人流データ等を活用し、ハード整備後のソフト運営を進めていきます。

また、「観光」が府中市を支える産業の一つとなるべく、観光コンテンツの開発と営業活動の実践・支援等により市内観光消費額の向上を図ります。

特に恋しきについてはまず「観光で稼ぐ」こと、さらにシティプロモーション効果を促進させるため、「食」というコンテンツに注力して盛り上げていきます。

料亭のプレオープンとして3月には、ミシュランガイド2つ星の世界で活躍されているフランス人シェフをフランス本国から招くほか、同じくミシュランの日本料理「喜多丘」の店主北岡氏をはじめ、県内外の有名シェフを招き、一流の料理、おもてなしを堪能することができます。

4月からは高級料亭として稼働させ、将来的には備後、広島県の迎賓館としての役割を担うことで集客のみならず府中市のブランド力向上にも寄与することを期待しており、インバウンド需要の喚起にもつなげていきたいと考えています。

翁座については令和6年10月に十八世中村勘三郎十三回忌追善公演が開催され、県の内外へのブランド発信効果を見込んでおり、上下地域の町並みとあわせ、賑わい創出と地域振興につなげていきます。

●令和6年度重点事業

- ・ 駅南エリアを中心とした賑わいづくり
- ・ 食の魅力発信事業（恋しき）
- ・ スポーツを活用した賑わいの創出

【基本目標4】安全・安心が持続するまち

国内で災害が頻繁に発生する状況において、市民が安心して生活できることは行政の基盤です。とくに、平成30年7月豪雨の際に市内各所で内水浸水被害（床上・床下）が発生したことから、将来にわたり安全で安心して生活できる地域づくりのため、内水浸水対策として中須ポンプ場の整備に令和6年度から着手し、令和8年度内の稼働開始を目指すことで浸水被害の軽減を図っていきます。

●令和6年度重点事業

- ・ 救急相談センター（#7119）事業
- ・ 浸水対策事業
- ・ （仮称）府中市クリーンセンター（ごみ中継施設）施設整備事業
- ・ ジーベックホール（府中市文化センター）耐震化事業

【基本目標5】ICT都市ふちゅうの実現

ICTのメリットを市民に実感していただくため、住民の窓口での手続きについて、システム等の効果的な活用により窓口の利便性向上・市民サービスの向上を図るとともに、事務の効率化による生産性の向上を図っていきます。

利用者目線に立った利用しやすい窓口について、「書かない窓口」を実現することで利用者の負担を軽減するとともに、関連手続きなどが視認しやすい案内表示やレイアウトを行います。

利用者・市民本位の行政を実現させるため、庁内文書管理システムを導入することで、庁内に散在する電子文書・紙保存文書を統合し、省スペース化と強靱なセキュリティ環境内での効率的な文書アクセスを実現し、事務処理の生産性を向上させます。

GISシステムを刷新し、市民の皆さま向けには、インターネット経由で土地台

帳などの情報を無料で提供します。令和6年度以降、GIS システムの地図情報と庁内文書管理システムを連携させることで、市民の方々が行政情報にアクセスしやすい環境を整備していきます。

●令和6年度重点事業

- ・ デジタル窓口・市役所庁舎窓口整備事業

【横断的目標】「選ばれるまち」ふちゅうの実現

令和6年4月から令和7年3月にかけて、様々な記念事業を実施することとしています。これらは単に市制70周年を祝うということではありません。

市民向けには、市民生活の質向上や地元企業に対する関心を高め、シビックプライドの醸成を図ることで、地域活動の担い手増につなげることを目的としており、市外向けには、周年記念を機にマスコミ等による露出の機会を増やすことで、シティプロモーションの促進につなげていきたいと考えています。

●令和6年度重点事業

- ・ 市制70周年記念事業

【方針】将来像を実現するための行政経営の方針

過去数年、一般財源ベースでは約10億円程度の歳出超過が常態化し、財政調整基金の残高は減少しています。

令和6年度予算編成において事業見直しを行ったところではありますが、義務的経費の上昇もあり、単年度での歳出削減額は限定的なものに留まりました。

歳出の圧縮はもとより、解決策として歳入の増加が必要不可欠であり、令和6年度からは所謂「稼ぐ自治体」へと変化するため、職員のコスト意識を高めるとともに、「稼ぐことを考え、稼ぐ」ことに力を入れていきます。

あわせて、事業実施にあたってはイベントのスポンサー獲得・クラウドファンディングによる収入確保、負担があっても参加したくなるような魅力的なコンテンツの創出、また業務委託や負担金・補助金等の内容精査を含めた効率的な事業運営による歳出抑制という観点からの行政改革を行っていきます。

また、行政組織と組織文化の変革なしに新しいモノは創り出せません。今後も、市財政の健全化のため、あらゆる分野で更新と見直しを行っていきます。

3. さいごに

府中市が「選ばれるまち」になるためには、市だけでできることは限られており、住民の方・市内企業の方・市外の関係者のみなさまと共に連携して取り組んでいく必要があります。

最後になりましたが、私のこの強い想いを御斟酌いただき、今後とも府中市行政に対し、格別の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年2月26日
府中市長
小野 申人